

成 29 年 9 月 15 日

## 朝日カルチャー「福岡県唯一の湿原を訪ねて」

台風 18 号の接近する中、平尾台に位置する福岡県唯一の湿原、広谷湿原を朝日カルチャーの受講生と一緒に歩きました。雨の心配をしながら当日を迎えましたが、バスから降りてくる博多の人たちから「日頃の行いが良かもんばかりが集まったから今日は降らんばい」との囁きが聞こえ、一日が始まりました。



はじめに、今日の見どころである①平尾台の秋の野の花、②秋吉台と平尾台の石灰岩の違い、③カルスト地形に何故湿原が生成の 3 点を説明し、平尾台を歩き始めました。登山道にはキセワタ、アキノノゲシ、アキカラマツ、オミナエシ、ハバヤマボクチ、ゲンノショウコ、キンミズヒキ、サイヨウシャジン、コマツナギ、ヒヨドリバナなどたくさんお秋の野の花が迎えてくれたので、12時には予定の半分の距離しか進めない状況でした。途中、野の花から石灰岩にも目を向け、平尾台の石灰岩は熱変性により小さな方解石で構成されているが、秋吉台の石灰岩は珊瑚の堆積岩そのまま構成されていることを皆で確認しました。



そして、12時半も過ぎた頃、広谷湿原に到着。お腹も減り、湿原のお花よりまずは腹ごしらえと皆で一列になり昼食。

昼食後は熱変性をもたらした花崗岩質のマグマが隆起した貫山の土が風化し粘土質の不透水層になり、ここ広谷は恐竜の時代に湖になり、その後、恐竜が堰を形成していた花崗岩を壊し？、湿原になったことを説明すると、「恐竜がここに水を飲みに来ていたんだね」とのロマン溢れる言葉が帰ってきて来て、周囲から笑い声が聞こえてきました



帰り際、「一面の草原はいつ野焼きするの」との問いに対し、「春ですよ」との返答に「春に来たいね」との嬉しい言葉を聞きながら博多へ帰って行きました。

(スタッフ：野見山、中村)